

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

人類の祖先はおよそ二〇〇万年前に、アメリカでアウストラロピテクスから分化したと考えられている。アウストラロピテクスの身長は一三〇センチ前後。外見はほとんどチンパンジーに近いけれど、注目すべきことは、直立歩行をしていたということだ。

この段階で人類の祖先は、樹上生活から地上に降りてきている。おそらくは^①この頃から、群れで暮らすようになってきたと考えられる。

最初は家族単位だった群れは、少しずつ数を増やしながら大きくなった。なぜなら地上は樹の上よりも天敵が多い。少数だと肉食獣に襲われる可能性が高い。また他の動物を獲物として狩るときも、家族だけでやるよりは大勢で手分けしてやったほうが、大きな動物や足の速い動物をしとめることができる可能性が高くなる。

こうして一つの家族が二つになり、二つが三つになり、群れの規模はどんどん大きくなった。

いくつかの群れがまとまって、さらに大きなひとつの群れになるようなこともあっただろう。つまり合併。ところがそうになると、群れの中は気心が知れた人ばかりとはいかなくなる。家族や知り合いなら我慢はできても、見も知らぬ他人だと我慢できないことも多い。喧嘩や仲たがいが多くなる。この頃から人類は石器などを使い始めたから、^{*}諍いがエスカレートしてかっとなつて、思わず手にしていた石器で殴ってしまったこともあったかもしれない。それにチームワークが悪いと、狩りもうまくできなくなる。^{*}平穏な生活も難しくなる。夜もぐっすり眠れない。天敵が怖いから群れを作ったのに、これでは逆効果だ。

こうして人類は、^②集団で生活するための取り決め(ルール)を作るようになった。

^③その目的は、諍いや争いを^{*}いさめるだけではない。たとえばみんなが分担してやる狩りのとき、いつも自分だけサボる人がいるかもしれない。あるいはゴミを決められた場所ではなく、そこら中に捨てる家族もいるかもしれない。

これは困る。だって集団生活をしているのだ。周りの人たちが迷惑を受ける。勝手な行動は許されない。

アジアの密林で生涯のほとんどを一匹で生きるトラには、守るべきルールはほとんどない。けれど同じネコ科の肉食獣

でも、アフリカのサバンナで小さな群れを作つて暮らすライオンの場合は、多少のルールらしきものがあるらしい。

つまりルールとは、自分以外の誰か(他者)との付き合い方なのだ。自分ひとりで生きてゆくならルールは要らない。でもヒトは単独行動ではなく集団生活を選択した。だからルールを大事にする生きものになった。

自分にとっては都合が良くても、群れの中の他の誰かや、あるいは群れ全体に損害を与えるような行為は許されない。

ア 「これをしてはいけない」と口で言うだけでは効力が薄い。人にどう思われようと平気だという人に対しては、ルールを決めるだけでは意味がない。

サッカーでも野球でもボクシングでも、およそスポーツにはすべてルールがある。そしてこのルールを守らなければ、強制的にペナルティを与えられる。イ イエローカードだ。同じ反則を何度もくり返すならば、今度はより重いレッドカードになり、その試合から強制的に排除されたり、反則負けの裁定を受けることになる。ウ そういう罰を与えるのと、何度でも同じ反則をくり返す人が出てくるからだ。

エ ルールを破つた人に対しては、ルールを破つてはいけないことを示すために、お仕置きや懲らしめを与えなくてはならない。ルールを破ることは、結局は得にならないのだということを、社会全体がきちんと理解しなくてはならない。

これが罰だ。

またちようどこの時期、人は宗教を持ち始める。でも仏教の宗祖であるブッダもキリスト教の宗祖であるイエスもイスラム教の宗祖であるムハンマドも、この頃にはまだ生まれていない。この頃の人たちは、風や火や山や川や石や海など、あらゆる自然の現象や物には、精霊が宿つているという宗教観(アニミズム)を持っていたので、誰かを傷つけたり誰かのものを盗んだりすることと同時に、宗教的なタブー(やってはいけないこと)を犯すことに対しても、とても厳しい罰が与えられることがよくあったという。

こうして集団生活のルールと宗教上のタブーを二つの柱にしながら、「罪と罰」という発想が生まれる。^④ところがこの時期の罰は、今から考えると、あまりに厳しすぎるものが多かった。

「目には目を。歯には歯を」というフレーズを、あなたもきくと聞いたことがあると思う。^⑤「タリオの法」と呼ばれ

この取り決めは、古代バビロニアの王であるハンムラビが発布した世界最古の法典（「ハンムラビ法典」）に記されている。

もしあなたが誰かの目をつぶしたのなら、あなたは罰として自分の目をつぶされねばならない。誰かの歯を折ったのなら、自分の歯を折られねばならない。

犯した罪と同じ罰を与えるということで、このフレーズは「オ」とも呼ばれている。

これだけを聞くととても厳しいルールのようだが、これ以前は犯した罪よりもっと重い罰を与えることが普通であったので、ハンムラビ法典におけるこのタリオの法は、ゆきすぎた罰を与えることを禁じるために生まれたとの説もある。

もうひとつ重要なこと。この世界最古の法典は、「何が犯罪行為であるかを明らかにして、これに触れたりこれを犯したりした場合には、あらかじめ決められた罰を与える」ということを示している。つまり罰を与える前に、どんな行為が罪なのかを、はっきりと明示したことになる。

言い換えればそれまでの原始社会では、どんなことをしたらどの程度の罪になるかを、きちんと決めていなかったということだ。特にその頃の社会では、規範や道徳などが、宗教的なタブーや取り決めと分けられないままにルールになっていたから、当然ながら罪と罰についても、きちんと決められていなかった。同じルール違反をしても、その時の村の長老や実力者の意見や気分、どれだけの人が迷惑を受けたかなどで、罰の種類や程度に差があった。あるいはみんなに好かれている人と嫌われている人では、同じルール違反をしても、片方は軽い罰で片方は重い罰になることだってあったかもしれない。

⑥これではやはり不公平だというわけで、文明が少しずつ成熟するとともに、「犯してはならない罪」とこれに「対応する罰の程度」を、きちんと決めておこうというルールが決まってきた。

これを「罪刑法定主義」という。つまり罪と刑罰が、法律によってあらかじめ定められていること。これは今も、とても大事な原則だ。

なぜこれが今も重要なのかといえば、政治家や指導者たちが、自分の都合のいいように罪を作ったり、罰を与えたりすることを防ぐためにだ。

森達也『きみが選んだ死刑のスイッチ』（理論社）による（設問の都合上、本文に手を加えています。）

* 諍い……言い争いやけんか。

* 平穏……事件もなくおだやかなこと。

* いさめる……注意をして改めさせる。

問一 —— 線①「この頃から、群れで暮らすようになってきたと考えられる」とありますが、その理由を三十五字以内で答えなさい。ただし、句読点も字数に含みます。

問二 —— 線②「集団で生活するための取り決め（ルール）」の説明にあたる部分を本文中から十八字で抜き出しなさい。

問三 —— 線③「その目的」として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 集団で生活する上で、その共同体の中の人々がみな安心して暮らせるように、争いごとの仲裁をする目的。

イ 集団で生活する上で、他者に損害を与える行為に注意を与えるとともに、それを無視した者に罰を与える目的。

ウ 集団で生活する上で、全体の利益となる規則を作り、それを言葉で伝えるのではなく、文字として残していく目的。

エ 集団で生活する上で、分担して行う作業の役割をそれぞれに定め、その役割を確実にやっているかどうか監視する目的。

問四 ア ～ エ にあてはまる語として最も適当なものを、それぞれ次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- 1 なぜなら
- 2 ところが
- 3 だから
- 4 つまり

問五 —— 線④「ところがこの時期の罰は、今から考えると、あまりに厳しすぎるものが多かった」とありますが、その理由として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア この時期に発生した宗教観は自然現象を神聖なものとしており、人々は占いによる吉凶を重要視していたので、刑罰においても占いによったから。

イ この時期の人々は集団生活を送る上で、集団における決定を最優先させたため、共同体を構成する人々全員による多数決によっていたから。

ウ 人々は、犯罪行為に対する刑罰の重さを設定したが、刑罰の決定を任された人物が権力者による圧力に負けてしまう状況が多くあったから。

エ どのような行為が罪であり、どの程度の罰を与えるのが適当かがはっきりしておらず、権力者の気分などによって刑罰が決められていたから。

問六 —— 線⑤「『タリオの法』と呼ばれるこの取り決め」とありますが、「タリオの法」のもたらした功績を七十五字以内で説明しなさい。ただし、句読点も字数に含みます。

問七 オに入る語として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- 1 栄枯盛衰
- 2 生殺与奪
- 3 同害報復
- 4 面従腹背

問八 —— 線⑥「これではやはり不公平だ」とありますが、「不公平」を改善するために生まれた考え方を端的に表す語を、本文中から抜き出して答えなさい。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

クラス委員長は、ぼくと三票の差で、脇山茂に決まった。彼は、前に出て挨拶をするために立ち上がった瞬間、振り返り、多くの顔を誇らしげにちらりと見た。①相変わらず仕様のない奴だなあと、ぼくは思う。彼は、ぼくが * 忌々しくてたまらないのだ。

「えー、皆さんに選出されて、委員長を務めることになった脇山です。まだ慣れないクラスの皆さんが、ぼくを選んでくれたことは、大変光栄で……」

光栄も何も。ぼくは、頬杖をつきながら、ぼんやりと彼の挨拶を聞いていた。皆、彼の名前が、試験の成績発表で常に一位の場所に載っているから、書いたただけだ。クラス委員長が誰になろうと知ったことではないのだ。それなのに、彼は、頬を紅潮させて、喋りまくっている。委員長をやると、進学に有利なのだろうか。あれ？ 大学受験に * 内申書なんてあったっけ。

クラス委員長を決める時期になると、ぼくは、小学校五年生の時のホームルームを思い出す。その時も、やはり、投票で委員長を決めることになっていたが、転校して来たばかりで、あまり事情の解っていないなかったぼくは、教壇の前の席のおっとりとした様子の女の子の名前を書いた。なんだかやさしそうに見えたからだ。そのことが、まるで重大事件のように扱われるとは予想もしていなかったのだ。

開票が進み、②その女の子の名前が呼ばれた時、黒板に向かって、正の字を書いていた生徒は信じられないという様子で後ろを振り返った。クラス全員の子たちが、くすくすと笑い始めた。ぼくは、何がどうなっているのやら、さっぱり解らずに、あたりをきよきよ見渡した。その瞬間、担任の教師は立ち上がり、大声で怒鳴った。

「誰だ！ 伊藤友子の名前を書いた奴は?！」

皆、くすくす笑うばかりだった。ぼくは、③すっかり仰天してしまったのと、腕力の強そうな男の教師に怯えたのとで、返事をする機会を失ってしまった。

「誰だか手を上げると言ってるんだ！ ふざけるにも程があるぞ!!」

ふざける？ ぼくは、混乱して、その言葉を頭の中で反芻した。伊藤友子の名を書くことは、ふざけたことなのか？ クラス全員が委員長になり得る、そういうことから、投票で決めることになっていたのでなかったのだろうか。

教師が怒鳴っている間、伊藤友子は、ずっと下を向いたきりだった。肩が震えているように見えた。

「ねえ、どうして、伊藤さんの名前を書いちゃ駄目なんだい」
彼は、迷惑そうに答えた。

「馬鹿だから」

その瞬間、教師は、ぼくたちに目を止めて、再び怒鳴った。

「そこ!! 何、喋ってる。もっと真面目にならんか!」

隣の生徒は、ぼくに向かって舌打ちをした。ぼくは、^④肩をすくめていた。教師は腹立たしげに音を立てながら、教室じゅうを歩き回った。

「先生は悲しいよ。皆に行動力をつけさせ、自立心を養うために、クラス委員長を選挙で決めてるといふのに。それを^⑤ふざけた態度で、馬鹿にするとは。投票はやり直した。二度目は、自分の名前も横に書くこと。委員長、副委員長、書記、その横に、自分の名前を書いて、記入すること。解ったね」

「^⑥解りません」

教師の足が、ぼくの言葉で止まった。ぼくは、小さく呟いただけのつもりだったが、その反対を主張する言葉は予想外に響いてしまったようだった。教師は額に筋を浮き立たせて、振り返った。

「誰だ!! 今、解りませんと言った奴は!! 立て!」

仕様がなくぼくは立ち上がった。クラスじゅうが、ざわめいた。

「時田か。転校して来たばかりで、この学校のことを何ひとつとして解つとらんくせに。で、どうして、解りませんと答えた？ それを説明してみなさい」

「だって、伊藤さんの名前を書いたのは、ぼくだからです」

一斉に驚きの声が上がった。信じらんない。そういう叫びにも似た声が、ぼくの耳に突き刺さった。「……おまえだっただのか。しかし、何故だ。転校して来たばかりとはいえ、誰を選んで良いのか、おまえにも区別はつくだろう。それとも、^{*}茶化してみたかったのか」

「そうではありません」

「じゃ、まだ友達が出来なくて、^⑦事情が飲み込めてなかったんだな」

「そういうんでもないです」

「じゃ、何なんだ」

「伊藤さんが、クラス委員長でも良いと思ったからです」

「なに!?!」

再び、笑いの渦が起こった。

「きさま、このクラスをなめているのか」

「なめてません。先生、どうして、伊藤さんでは駄目なんですか?」

教師は、言葉に詰まって唇を歪めた。

「……じゃ、おまえは、何故、伊藤が相応しいと思ったんだ」

「親切そうだからです」

誰もが笑い転げた。中には、机を叩いているものもいた。ぼくは、^{*}懽然としたまま、教師をにらみつけていた。訳の解らない怒りが、ぼくの心に急速に湧いて来たのだった。

「まあ、いい。時田は、転校生で何も解らんのだ。皆、投票をやり直す必要はない。どうせ一票ぐらい無効があったって、結果には変わらないのだ。丸山、残りのやつを開票しなさい。時田は座ってよろしい。今後、注意するように」

そうは行かなかった。ぼくは、^{*}伊達に、十一年間生きて来たのではないのだ。ここで引き下がるのは恥だ。ぼくの母は、いつも、^⑧格好の良い男になるのよ、と、ぼくを諭してくれたのだ。

「先生は、ぼくの質問に答えていません」

「何？」

「どうして伊藤さんでは駄目なのですか」

「……………」

「勉強が出来ないからですか？」

教師は答えなかった。ぼくを完全に無視したまま、丸山という前回の委員長に、残りの票を読み上げるよう促した。伊藤友子の名は、もう呼ばれることはなかった。ぼくは、仕方なく腰こしを降ろしたが、気持は暗かった。前に目をやると、机に伏せて鼻を吸すっている伊藤友子の姿が見えた。ぼくは、この時、初めて、大人を見くたすことを覚えた。

山田詠美『ぼくは勉強ができない』（新潮文庫）による（設問の都合上、本文に手を加えてあります。）

*忌々しく……腹立たしく。

*内申書……成績などが記された人物調査票。

*反芻……くり返しよく考えること。

*茶化し……話をまじめに聞かないで、ふざけた言動をし。

*懨然……不満を感じて、だまること。

*伊達に……見せかけで。

問一 —— 線①「相変わらず仕様のない奴だなあ」という心情を表している「ぼく」の行動を、本文中から三十字以内で抜き出して答えなさい。ただし、句読点も字数に含まれます。

問二 —— 線②「その女の子」とありますが、本文中における彼女の様子を、二か所抜き出して答えなさい。

問三 —— 線③「すっかり仰天してしまった」とありますが、なぜ仰天してしまったのですか。その理由を六十字以内で答えなさい。ただし、句読点も字数に含まれます。

問四 —— 線④「肩をすくめていた。」とありますが、そのような動作をした理由として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分が投票したことで、伊藤友子を傷つけてしまったと反省しているから。

イ 自分が伊藤友子に投票しクラス中が笑い出したことに、腹が立っているから。

ウ 隣の生徒が自分のせいで先生に怒られたことを、申し訳なく思っているから。

エ 隣の生徒に話しかけたことを先生に怒られたことが、不本意だったから。

問五 —— 線⑤「ふざけた態度で、馬鹿にするとは。」とありますが、先生はどのような態度を「ふざけた態度」と感じましたか。本文中の言葉を用いて十五字以内で答えなさい。ただし、句読点も字数に含まれます。

問六 —— 線⑥「解りません」と、僕が答えた理由として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア クラス全員が委員長になり得るはずの投票だったのに、教師が伊藤友子の票を認めなかったことに納得できなかったから。

イ クラス全員が委員長になり得るはずの投票中に、教師が突然怒り出したこと理由がまったく理解できなかったから。

ウ 転校してきたばかりで何もわからないので隣の席の生徒に質問しただけなのに、それを教師に怒られて困惑してしまっただから。

エ 無記名でこそ意味があるはずの投票なのに、投票者の名前を書くようにという教師のした指示がおかしく思えたから。

問七 — 線⑦「事情」とありますが、どのようなことですか。次の中から最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 伊藤友子は転校してきたばかりで、誰とも話せないということ。
- イ 伊藤友子はクラスの中では認められた存在ではないこと。
- ウ 伊藤友子は、みんなを笑わせることができる人気者だということ。
- エ 伊藤友子のことを、担任の先生だけが嫌っているということ。

問八 — 線⑧「格好の良い男」とありますが、この場面において「格好の良い男」とはどのような男のことですか。簡潔に答えなさい。

三

次の各問いに答えなさい。

問一 次の — 線の漢字はひらがなで書き、カタカナは漢字に直して書きなさい。ただし、送りがなが必要な場合には、合わせて答えなさい。

- ① トモ子はタケシの言葉に嫌悪の情をあらわした。
- ② 祖先を尊ぶ気持ちを大切にす。
- ③ 原料を外国にイゾンする。
- ④ 頂上から街並みをナガメル。

問二 次の意味になる四字熟語を、後の漢字群の漢字を組み合わせて、それぞれ書きなさい。

- ① 面倒な事態を手際よく処理することのたとえ。
- ② 何度も失敗を重ねるうちに解決へ近づいていくこと。

快	行	思	投	誤	刀	考	麻
索	乱	解	試	悟	錯	答	回

問三 次の言葉について、() の指示にあてはまる言葉をあとの語群から選び、漢字に直して答えなさい。

- ① 見事 (類義語)
- ② 原告 (対義語)

ろんこく	しっぱい	りっぱ	ひこく	はで	けつろん
------	------	-----	-----	----	------

問四 次の外来語と対応する日本語訳の組み合わせの中で、正しくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ① パフォーマンス…演技
- ② オムニバス …短編集
- ③ リスク …挑戦ちようせん
- ④ バリエーション…変化

問五 次の□に共通して入る語をひらがな二文字で答えなさい。

- 芝居
- 知恵
- 真似

解答

- 問一 点滴や肉食獣から身を守ったり、獲物を狩る可能性を高めたりするため。
自分以外の誰か(他者)との付き合い方
- 問二
- 問三 イ
- 問四 ア 2 イ 4 ウ 1 エ 3
- 問五 犯した罪と同じ罪を与えることで、ゆきすぎた罰を与えることを禁じ、何が犯罪行為であるかはつきりさせ、あらかじめ決められた罪を与えることを明示したこと。
- 問六
- 問七 3
罪刑法定主義
- 問八

- 問一 ぼくは、頬杖をつきながら、ぼんやりと彼の挨拶を聞いていた。
● ずっと下を向いたきりだった
● 机に伏せて鼻を嚙っている
ぼくが書いた「伊藤友子」という名前にクラス全員がくすくす笑い始め、担任の先生が「誰が書いたのか」と大声で怒鳴ったから。
- 問二
- 問三
- 問四
- 問五
- 問六
- 問七
- 問八

- イ ア 伊藤友子に投票するという態度。
教師の理不尽な態度に立ち向かい、自分の考えを主張できる男(のこと)。

- 問一 ① けんお ② たつと(ぶ) ※とうと(ぶ) も可
③ 依存 ④ 眺める ⑤ 情勢
- 問二 ① 快刀乱麻 ② 試行錯誤
- 問三 ① 立派 ② 被告
- 問四 さる
- 問五

解説

問六 すこし後で「タリオの法は」ゆきすぎた罰を与えることを禁じるために生まれた」とあり、もうひとつ「何が犯罪行為であるかを明らかにして」「罰を与える前に、どんな行為が罪なのかを、はつきりと明示した」と述べられています。

問三 前の部分で「その女の子(≡伊藤友子)の名前が呼ばれた時」「クラス全員の子たちがくすくすと笑い始めた」「担任の教師は立ち上がり、大声で怒鳴った」とあります。
「そうはいかなかった」「ここで引き下がるのは恥だ」という表現から、教師の態度に納得できず、引き下がりにくいと思う「ぼく」の気持ちかがわかります。

問五